



*Objectivism: The
Philosophy of Ayn
Rand を読む*

2020年7月3日 ARCJ定例会

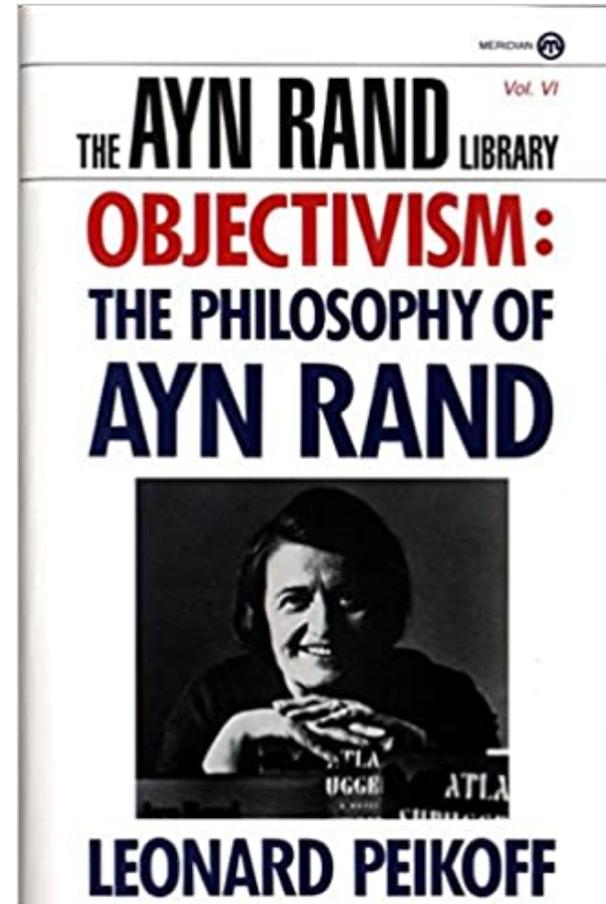
三上 哲寛

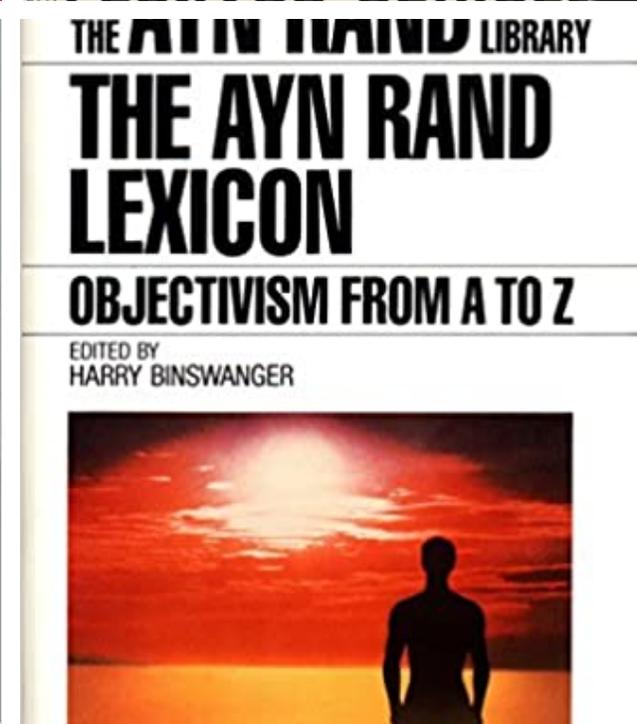
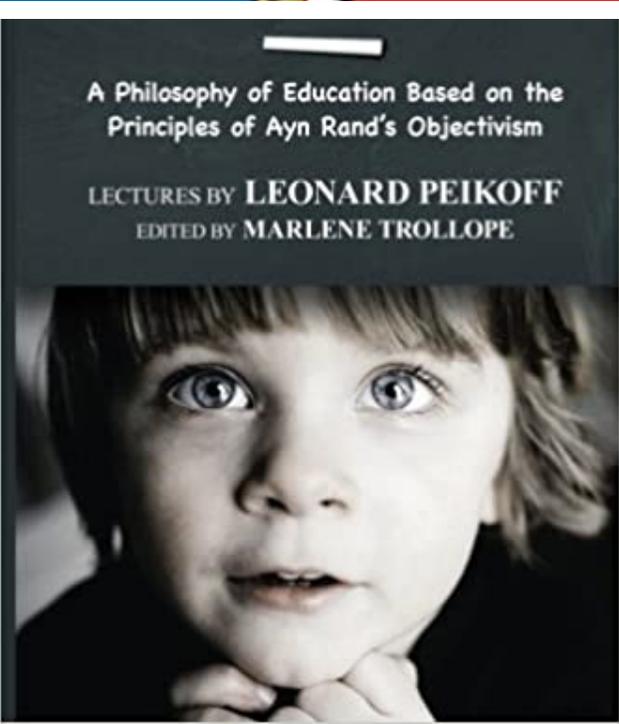
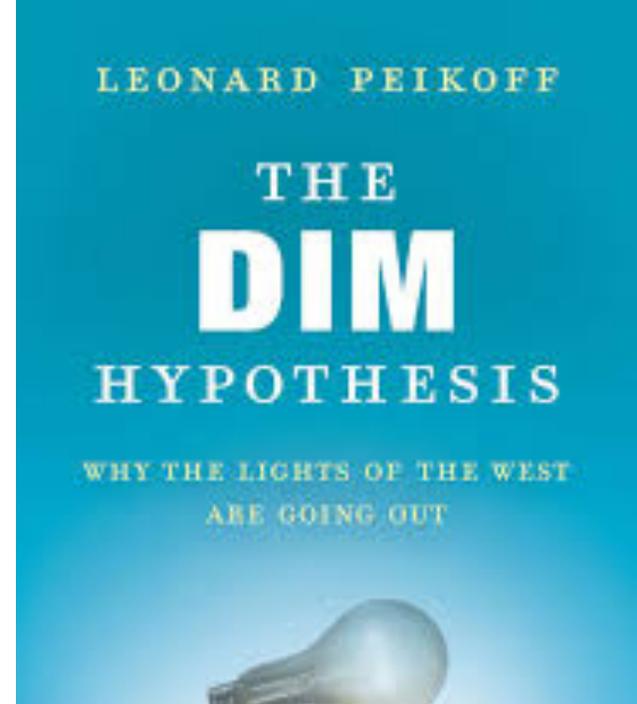
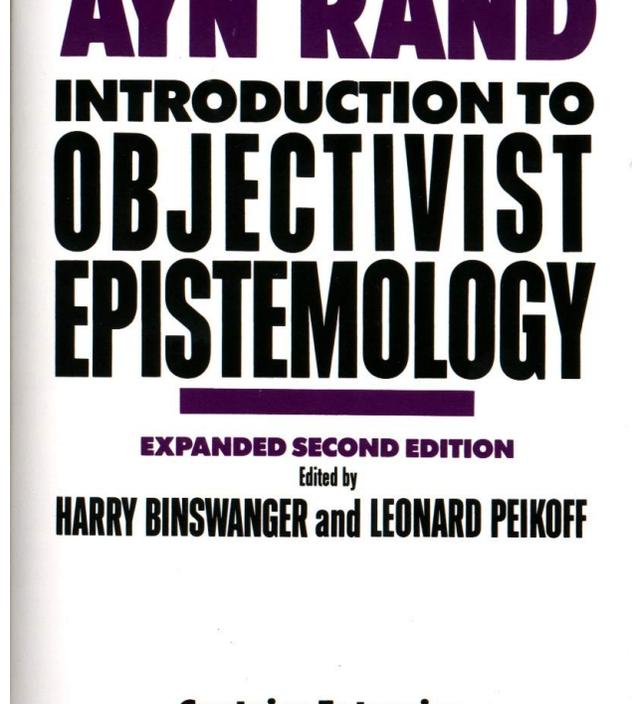
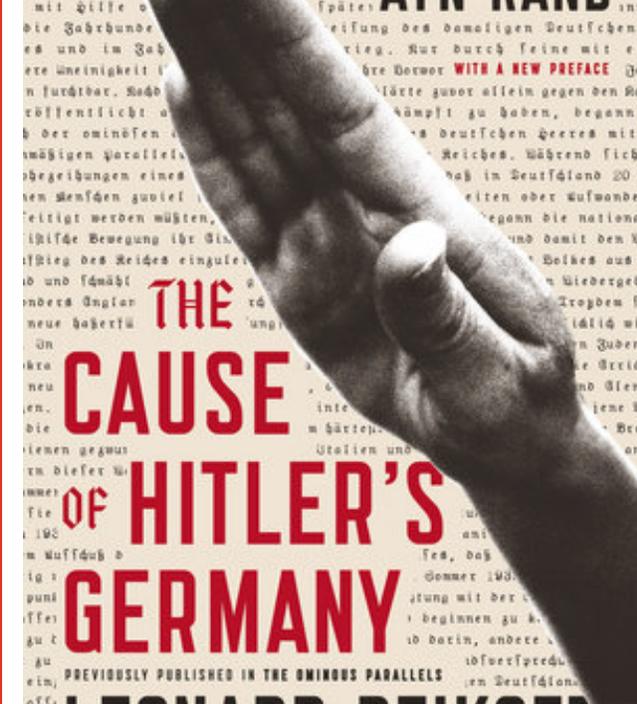
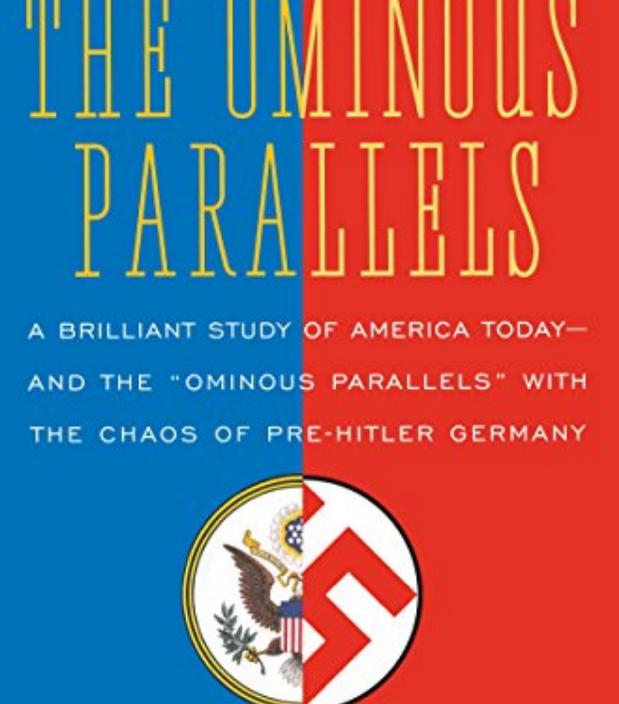
Objectivism: The Philosophy of Ayn Rand

1991年に出版された客観主義の教科書

著者レナード・ピーコフは哲学者であり、アイン・ランドの一番弟子といえる存在

1976年にピーコフがニューヨークで行った『The Philosophy of Objectivism』という講座をベースにしており、この講座は客観主義を包括的に論じている唯一のものだとアイン・ランドが評価





レナード・ピーコフ博士

- ニューヨーク大学で博士号（哲学）取得
- 生前のアイン・ランドとの深い交流
- 1985年にAyn Rand Institute (ARI) を設立
- 最もオーソドックスな客観主義哲学者の1人

本書の概要

「3つの公理」
実存
意識
同一性

エゴイズム

1. REALITY

7. THE GOOD

2. SENCE PERCEPTION
AND VOLITION

8. VIRTUE

職業倫理

認識論

3. CONCEPT-FORMATION

9. HAPPINESS

4. OBJECTIVITY

10. GOVERNMENT

人権

5. REASON

理性

11. CAPITALISM

6. MAN

美德

12. ART

自由放任資本主義

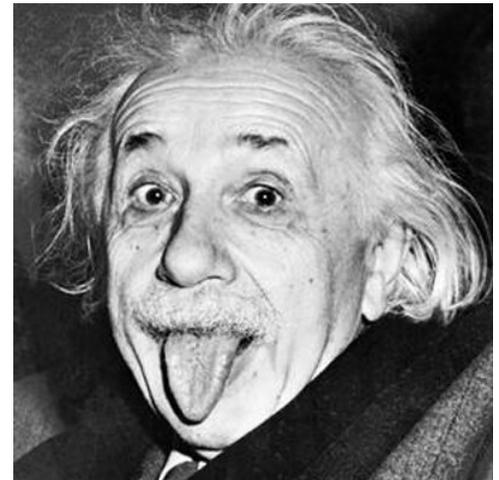
本節の概要①

The Primary Choice as the Choice to Focus or Not (第2章第5節)

客観主義の体系の中で基盤となる部分

自由意志について論じている

オレンジジュースじゃなくてコーラを買ったのは自分の選択？あるいは5分前にすでに決まっていた？



本節の概要②

自由意志はある

最初のステップとしてFocusするか否かという選択がある

“Focus” is the state of a goal-directed mind committed to attaining full awareness of reality. (p.56)

例：目の焦点、ラジオの聞き取り



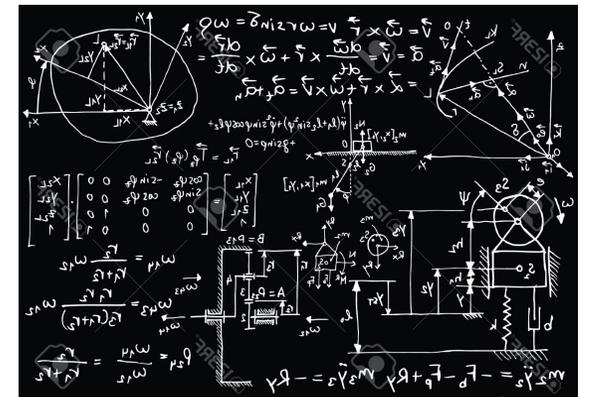
本節の概要③

現実を完全に把握しようとする姿勢（全知の意味ではない）

Focusは必ずしも「思考（Thinking）」を意味しない

Focusするか否かの選択は瞬間ごとに行われる

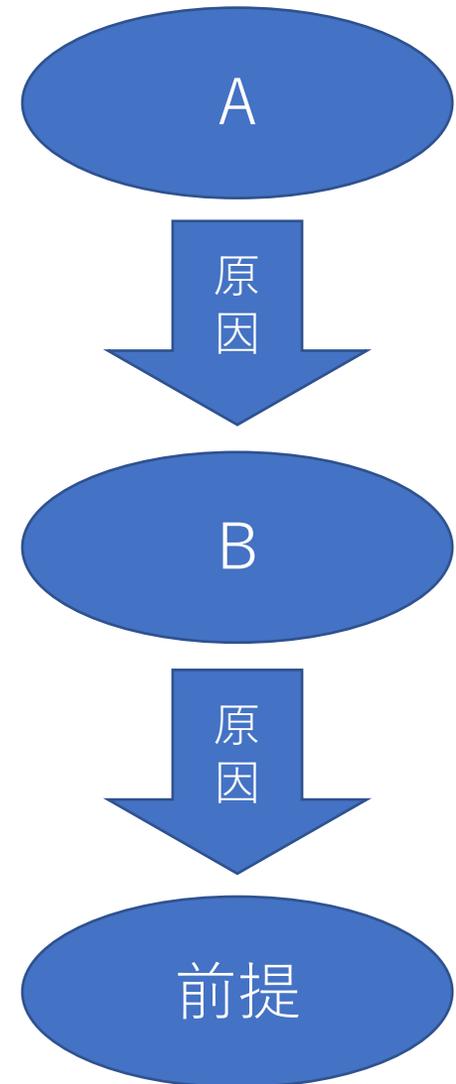
The most conscientious man, though he may have every inclination to use his mind, retains the power to decide not to think further. The most anti-effort mentality, despite all his fears and disinclinations, retains the power to renounce drift in favor of purpose. (p.60)



本節の概要④

Focusする選択はあらゆる選択の前提である（なぜその選択をしたのかを問うことはできない）

なぜ最初の選択を行なったのかを分析しようとする時点ですでに「最初の選択」を行なっている状態にある



本節の概要⑤

3つの選択肢

- Focus
 - 現実を完全に把握しようとする姿勢
- Drift
 - Focusしていない状態
 - 周りの環境に流されている状態
- Evade
 - 第3の選択肢
 - 現実を回避する姿勢
 - Driftとは異なり、能動的な選択を行なっている
 - 事実ではなく気分に基づく（気分が前提になっている）



デイスカッショントピック例①

- FOCUSのコンセプトは一般的に使われている言葉の定義（一つのこと集中する）とは異なるものか
- さらに言えばアイン・ランドはSELFISHという言葉をよく用いるが、これはレトリックに過ぎないのか、それとも必要不可欠な単語なのか（SELFISHという言葉は一般的にはネガティブなニュアンスを持つが、それをあえて使う必要はあるのか）
- ピーコフ博士は死後もランドの思想に忠実であり、非常に厳格な解釈を要求した(v. David KellyのAtlas Society)が、こうしたところに客観主義が分析可能な思想ではなくカルトと呼ばれる原因があるのか

ディスカッショントピック例②

- アイン・ランドが人を惹きつける理由はその物語（文章・文体）にあるのか、それともその思想にあるのか、あるいは両方か
- 『肩をすくめるアトラス』や『水源』の登場人物たちは客観主義者といえるか
- 客観主義はアイン・ランドと切り離せるのか（アイン・ランドの意図を超えて発展することは可能か）
- 客観主義における自由放任資本主義は実現可能か、それとも政府による介入は必要か（どの程度必要か）
- アイン・ランドは資本主義が道徳的であると主張しているが、資本主義に道徳的根拠は必要か

デイスカッショントピック例③

- 日本においてアイン・ランドの思想（もしくはリバタリアニズム）が受け入れられる土壌はあるか
- コロナウイルスの感染拡大を防止するために政府が外出禁止措置を講じることは「政府による不当な介入」といえるか（cf. スウェーデンは外出禁止措置をあまり講じていない）
- 自由意思は存在するか（コンビニで今選んだお菓子は3年前から選ばれることが決まっていたのか）
- 自分の選択ではなく、偶発的な事情（運・縁・時代の流れ等）に身を任せることは人生において必要（重要）か